

○令和元年東日本台風では阿武隈川流域において、既往最大の洪水により堤防が決壊するなど各地で甚大な被害が発生したことから、国、県、沿川市町村により「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を策定し、ハード・ソフト両面で治水対策を推進している。

阿武隈川本川の主要事業(国)

- 被災した80箇所の施設の復旧を実施しているところであり、これまで64箇所(8割)の復旧が完了。年度内に全ての完了を目指し、復旧工事を継続中。
- 河道掘削事業を実施中。全体計画約220万 m^3 のうち、これまで約70万 m^3 (3割強)の掘削を完了済み。
- 本宮地区(本宮市)、御代田地区(郡山市)の堤防整備が完了したほか、各地で堤防強化を推進。
- 遊水地整備を推進すべく、3町村(鏡石町、矢吹町、玉川村)の皆様にご協力をいただき、遊水地範囲(案)を説明し意見交換を行っているところ、現在、設計や現地での地質調査、用地調査を実施中。

阿武隈川支川の主要事業(県)

- 塩野川(伊達市)、濁川(福島市)、谷田川(郡山市)等については、流下能力の向上とバックウォーター対策のため、堤防嵩上げ、河道掘削等を実施中。



「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

福島河川国道事務所

- 令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害**となった。
- 今後、**関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策**を行うことにより、**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指す。

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約1,840億円

- 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生
- 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化



98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

相互に
連携

土地利用や避難体制を意識した事業推進
施設整備計画を踏まえた避難計画等

②減災型都市計画の展開

- 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化
- 沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



雨水調整池内部の状況

下水道事業による雨水貯留施設の例(郡山市)

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

- 本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響
- 的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

- 本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響
- 本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

- 地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信 等

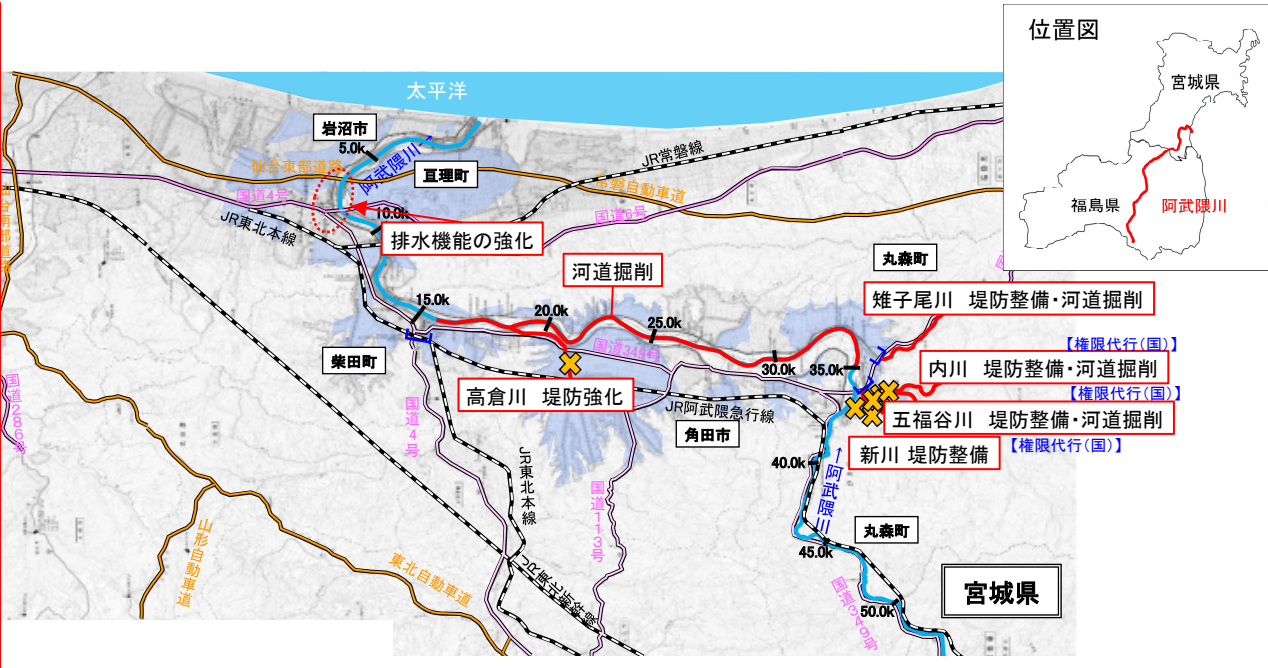
※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

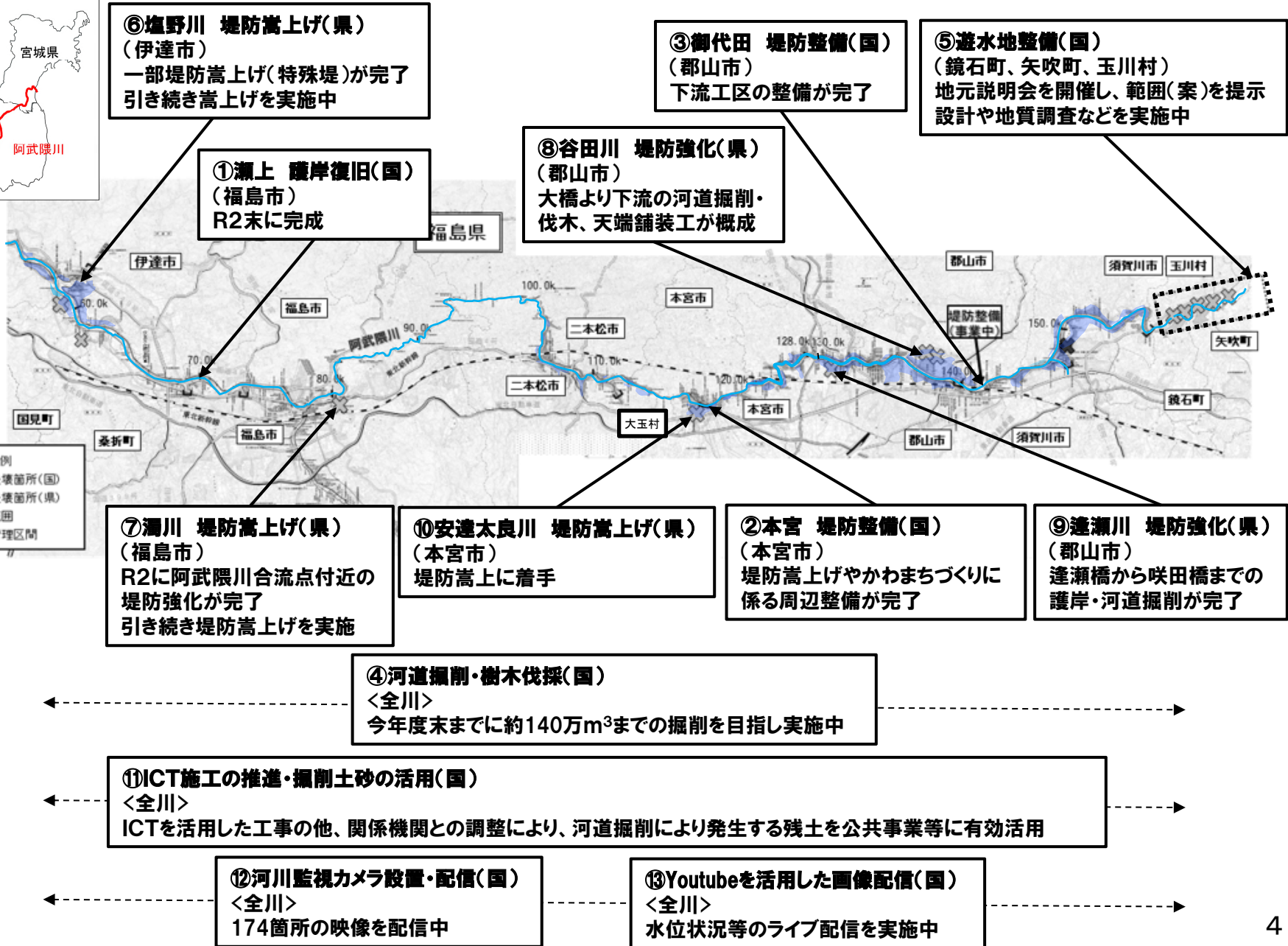
- 全体事業費 約1,840億円
- 事業種別
- 改良復旧事業
 - 国:阿武隈川上流(福島県内)
 - 全体事業費 約999億円
 - 事業期間 令和元年度～令和10年度
 - 国:阿武隈川下流(宮城県内)
 - 全体事業費 約215億円
 - 事業期間 令和元年度～令和6年度
 - 福島県: 約66億円
 - 宮城県: 約18億円
- 災害復旧事業
 - 国:阿武隈川上流(福島県内)
 - 全体事業費 約130億円
 - 事業期間 令和元年度～令和2年度
 - 国:阿武隈川下流(宮城県内)
 - 全体事業費 約99億円
 - 事業期間 令和元年度～令和2年度
 - 福島県: 約268億円
 - 宮城県: 約44億円



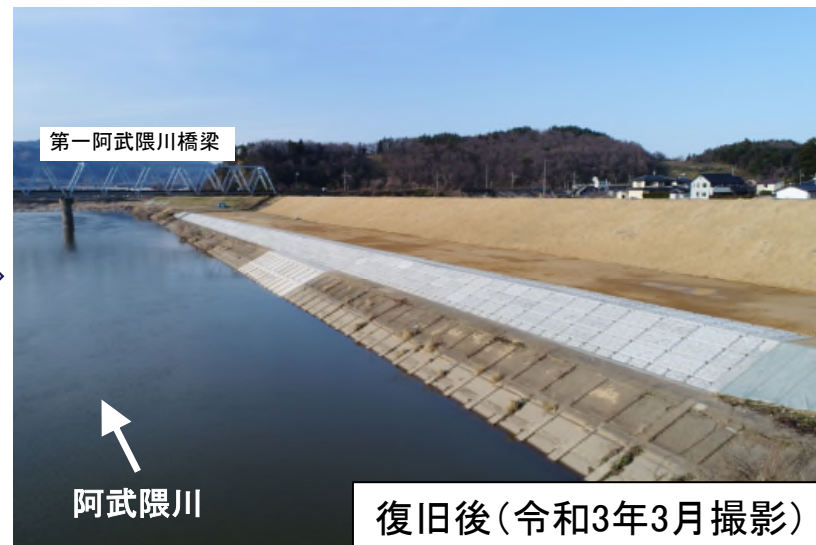
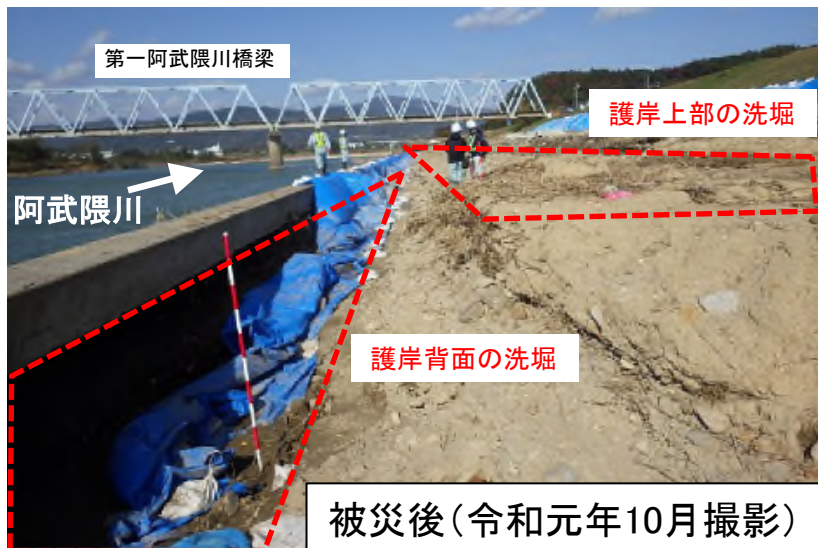
※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。 3

緊急治水対策プロジェクト 主要事業箇所 (R3年度実施分)

福島河川国道事務所



○災害復旧工事80箇所のうち、今年9月末までに64箇所（80%）にて復旧完了。
残りの箇所についても今年度中に工事完了予定。



(工事状況)



コンクリートブロックの設置

【本宮市】本宮地区 左右岸築堤事業

福島河川国道事務所

○平成17年より、本宮市のまちづくりと一体となった治水対策に取り組み、令和3年3月対策が完了



【左岸】特殊堤整備完了(令和3年3月)



【左岸】旧橋撤去、天端舗装完了(令和3年6月)



【右岸】堤防嵩上げ完了(令和2年5月)



○市と国と連携した整備の結果、河川空間の利活用が促進され、阿武隈川が本宮市による各種行事開催など、阿武隈川が人々の交流の場として活用されることを期待。

特殊堤とあわせ管理用**通路を整備**し利便性が向上



“まち”と“かわ”をつなぐ**広場整備**(本宮市整備)



階段と散策路を整備により、川とふれあう距離が身近に



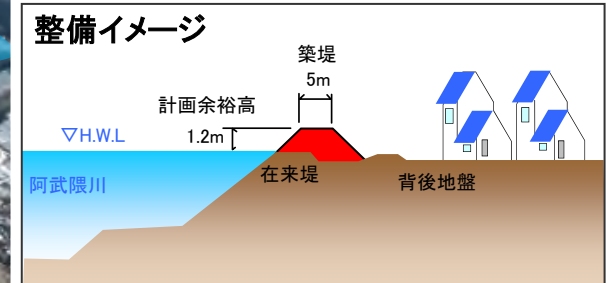
気軽に川沿いを散策いただけるよう**案内表示板**を設置



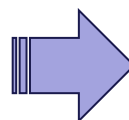
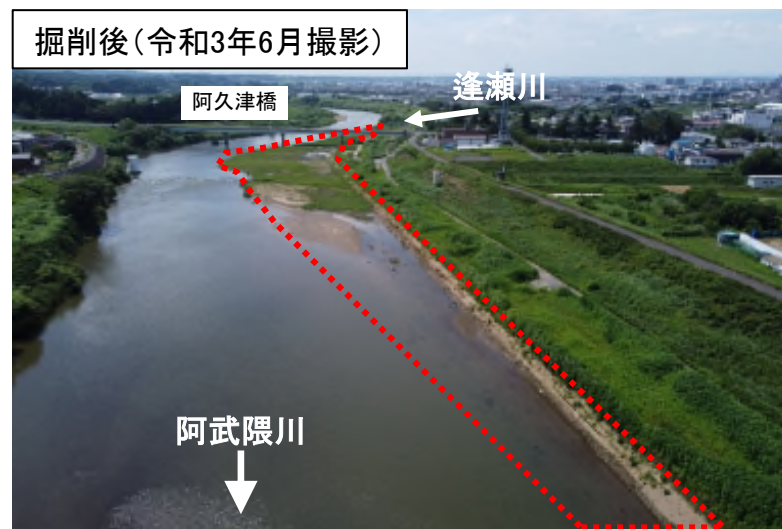
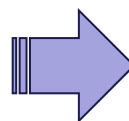
【郡山市】御代田（みよた）地区 築堤事業

福島河川国道事務所

○東日本台風による浸水被害を受け堤防整備に緊急着手し、本年5月、下流工区の堤防整備が概成



- 阿武隈川本川各地で河道掘削を実施中。
- 今年9月末までに全体計画約220万 m^3 のうち、約3割となる約70万 m^3 を掘削。
- 今年度末までに約140万 m^3 （約6割）までの掘削を目指しており、先行して樹木伐採を実施。



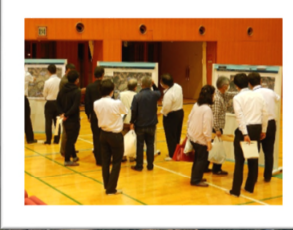
- 阿武隈川本川各地で河道掘削を実施中している。今年9月末までに全体計画約220万 m^3 のうち、約3割となる約70万 m^3 を掘削が完了した。今年度末までに約140万 m^3 (約6割)までの掘削を目指しており、先行して樹木伐採を実施している。
- 河道掘削を進めていく上で、掘削残土の搬出先が課題である。そのため、掘削残土を受入れる事ができる事業や施設がある場合ご連絡・ご相談して頂きたい。



【鏡石町、矢吹町、玉川村】遊水地整備

○遊水地整備を推進すべく、3町村(鏡石町、矢吹町、玉川村)の皆様にご説明し、遊水地範囲(案)を説明し意見交換を行っているところ、現在、設計や現地で地質調査、用地調査を実施中。

- <浸水範囲の凡例>
- ：令和元年東日本台風(19号)洪水
 - ：H23.9洪水
 - ：H10.8洪水
 - ：S61.8洪水
 - ：事業予定範囲



住民説明会
令和3年5月28日～6月5日



注意！ 今後実施する設計精査の結果、遊水地群計画の予定範囲に若干の変更が生じる場合があります。

■ 阿武隈川緊急治水対策プロジェクトに基づき、概ね10年間で治水対策を実施

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト(上流遊水地群整備) 概略工程

概略工程		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
測量	・遊水地範囲検討	→								
事業計画の検討	・計画規模	→								
調査	・地質調査など		→							
設計	・遊水地関係施設		→							
用地調査	・測量 ・土地価格の算定		→							
用地協議	・用地協議、補償			→						
工事					→					

注) 本計画は新年度予算が成立していることを前提としています。
 上記プロジェクト工程については、予算の配分や今後の調査状況により変更する可能性もあります。

- 今後、流域治水の取組をより実装するため、各支川ブロック単位での取組を推進していく必要。
- 今年5月に改正された特定都市河川浸水被害対策法等に基づく、流域内の河川を特定都市河川への指定を視野に検討を進める。

特定都市河川浸水被害対策法（一部改正）の主な内容

○「特定都市河川」に指定できる河川の拡大

- 市街化の進展により河川整備で被害防止が困難な河川（8水系で指定済み）に加え、自然的条件により被害防止が困難な河川※を追加（**全国の河川に拡大**） ※バックウォーター現象のおそれがある河川、狭窄部の上流の河川等

特定都市河川の指定により

- **一定規模（1000m²）以上の雨水浸透阻害行為**（土地からの流出雨水量を増加させるおそれのある行為）は**雨水貯留施設の設置が必要**。
- 国、都道府県、市町村の関係者、学識者を構成員とする**流域治水対策協議会を設置し、流域水害対策計画の策定・変更に関する協議、計画の実施に係る調整をおこなう**。
- 自治体による雨水貯留浸透施設整備に係る**補助率のかさ上げ**や民間企業等の**固定資産税の減免**を行う。
- 一定規模（100m³）以上の防災調整池を保全調節池として都道府県知事が指定し、埋立てのように、機能を阻害するおそれがある行為に対する届出義務。
- 川沿いの低地や流域内の窪地など、**浸水の拡大を抑制する効用を保全**するため、都道府県知事等が、**「貯留機能保全区域として指定」**することができる。
- 高齢者等の要配慮者の方をはじめとする人の生命・身体を保護するため、洪水が発生した場合著しい危機が生ずるおそれのある地区を、都道府県知事が、**「浸水被害防止区域」として指定し、開発規制・建築規制を措置**することができる。

気候変動を踏まえた治水計画の見直し

○治水計画を、「過去の降雨実績に基づく計画」から
「気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画」に見直し

第109回河川整備基本方針
検討小委員会資料

これまで

洪水、内水氾濫、土砂災害、高潮・高波等を防御する計画は、
これまで、過去の降雨、潮位などに基づいて作成してきた。

しかし、
気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると
現在の計画の整備完了時点では、実質的な安全度が確保できないおそれ

気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

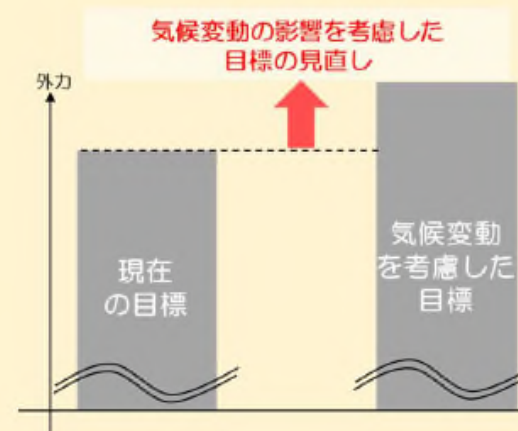
※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ(パリ協定が目標としているもの)

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模(1/100等))
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※ 流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は、一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100~1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



河川整備基本方針／河川整備計画

福島河川国道事務所

- 河川整備は長期的な計画を定めた河川整備基本方針に沿って、概ね30年間の具体的な整備内容を定めた河川整備計画に基づき実施してきたところ。
- 気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画への見直しに向けた検討を進めているところ。

河川整備基本方針

- ・長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針を定めたもの
- ・個別事業など具体の河川整備の内容を定めず、整備の考え方を記述

年超過確率1/150対応

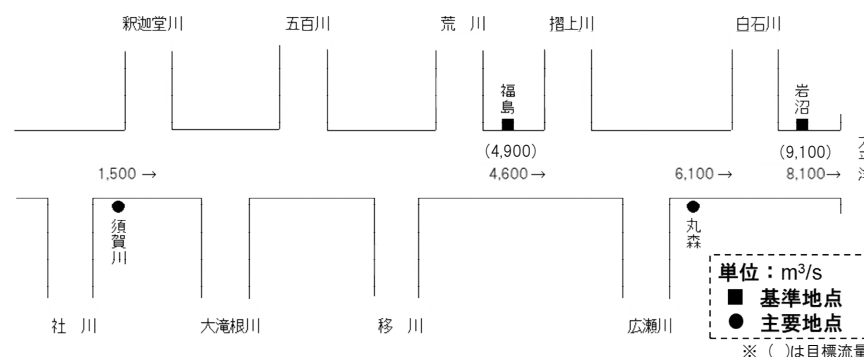
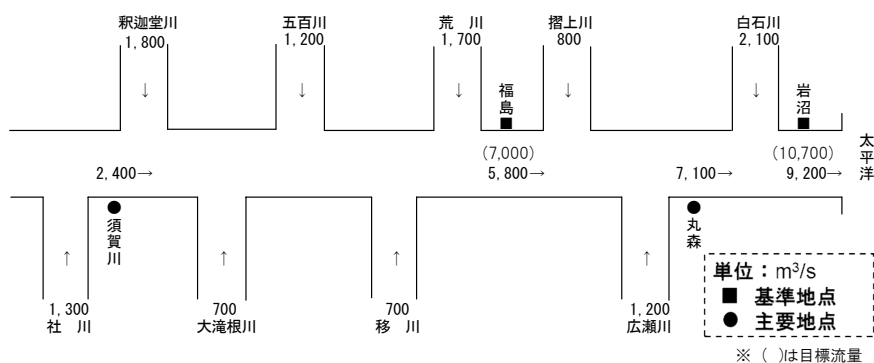
平成16年1月策定
平成24年11月変更

河川整備計画

- ・個別事業を含む具体的な河川の整備の内容を明らかにする
- ・平成18年度を初年度として概ね30年間

策定時、戦後最大洪水であった昭和61年8月洪水対応(概ね、年超過確率1/60)

平成19年3月策定
平成24年11月変更

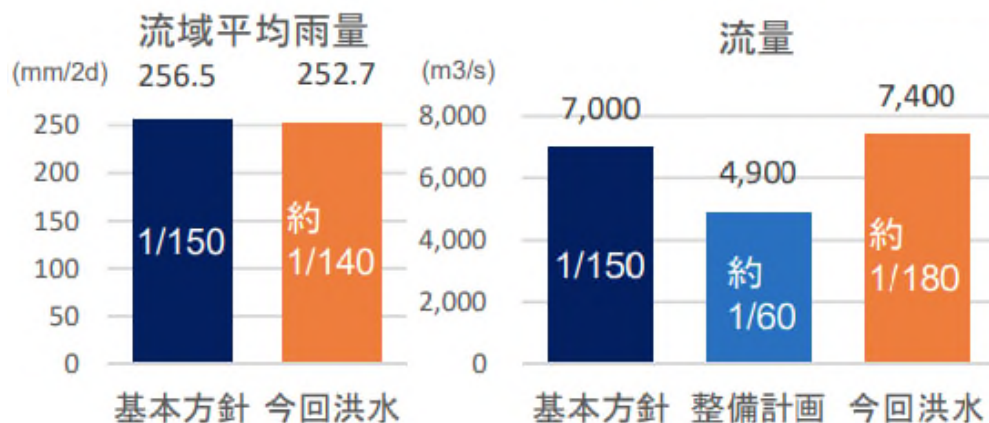


※阿武隈川緊急治水対策プロジェクト(令和元年度～令和10年度)は現行の河川整備計画の大幅前倒し・拡充により、戦後最大の令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

○流域に寛大な被害をもたらせた令和元年東日本台風は、将来目標としていた河川整備基本方針の流量を超える規模。

雨量 ・ 流量

阿武隈川(福島)



※数値は、速報値(R2.1時点)であり、今後変更となる場合がある。
 ※雨量は、対象降雨の継続時間の基準地点上流域の平均雨量。
 ※流量は、ダム・氾濫戻し。また、「基本方針」は基本高水のピーク流量、「整備計画」は整備計画目標流量。

令和元年東日本台風 被害状況等

○全ての水位観測所で
観測史上最高水位

○浸水面積: 約3,200ha

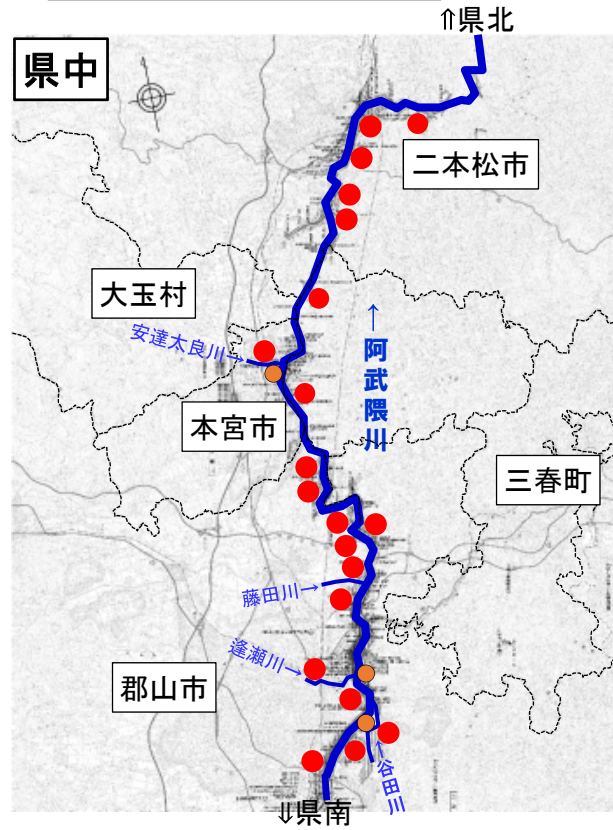
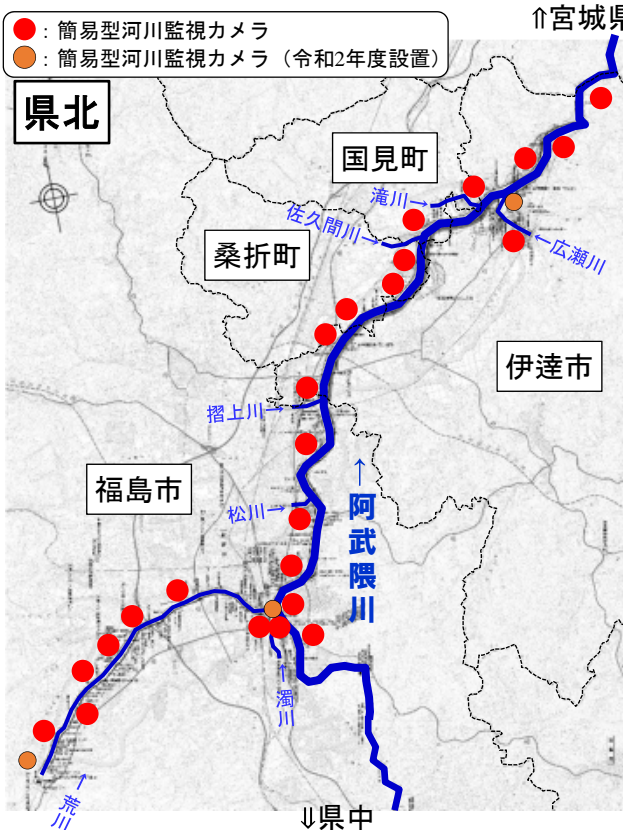
○浸水戸数
 床上: 約9,300戸
 床下: 約2,200戸

※国直轄管理区間の市町村全体での
数字であり、今後の調査で変更となる
可能性があります。

- 福島河川国道事務所では、河川の様子を動画で監視するCCTVカメラ、及び静止画で監視する簡易カメラを整備し、「川の水位情報」等で公開している。
- 令和2年10月時点で、63箇所のカCTV画像を「川の水位情報」等で公開していたが、令和3年10月時点で、101箇所公開箇所を拡大した。
- また、簡易監視カメラは、令和2年10月時点で53箇所設置していたが、令和3年10月時点で73箇所設置箇所を増やし、「川の水位情報」等で公開している。
- また、You tube公式ページにおいて、河川監視カメラ画像のライブ配信を開始しており、今後も引き続き映像公開体制の強化を図る。

「川の水位情報」
<https://k.river.go.jp/>

簡易カメラ設置位置図



カメラ設置イメージ
 カメラ画像イメージ (矢吹町谷中)

○平常時・洪水時の河川状況や河川水位の上昇等を把握できるよう、YouTube福島河川国道事務所公式ページにおいてライブ配信を開始。



- 防災 → 河川
- 砂防 → 道路
- 入札・契約情報

事務所概要

- > 組織一覧及び連絡先
- > 所在地
- > 沿革



You Tube 福島
河川国道事務所

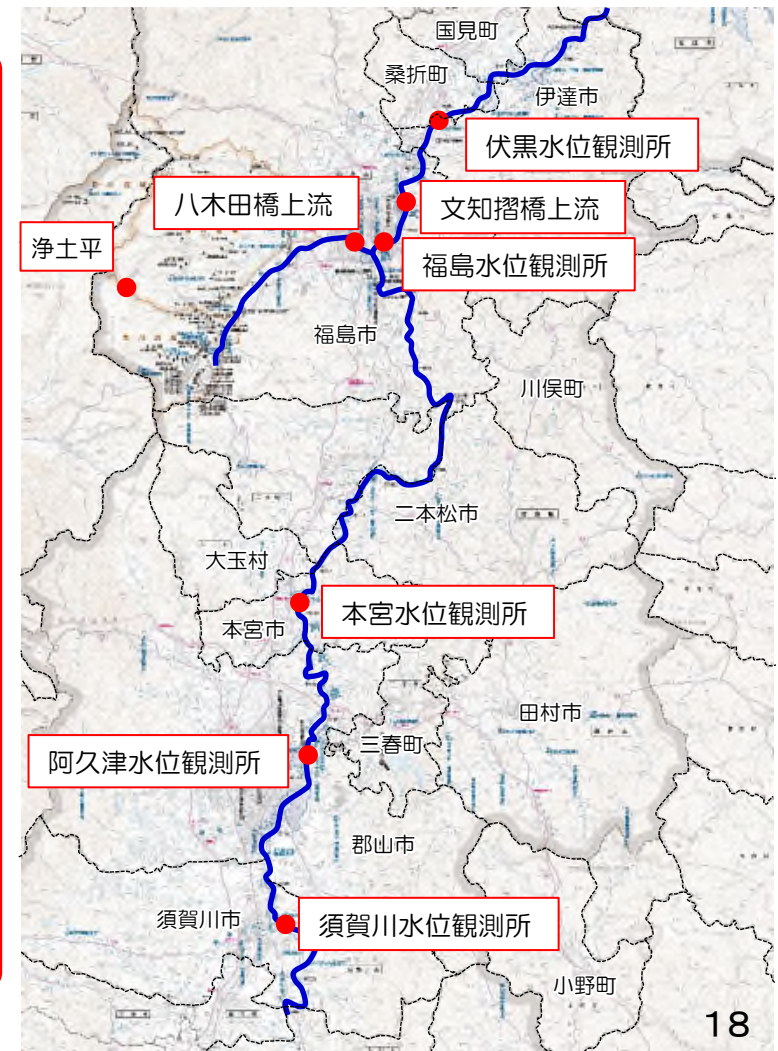


https://www.youtube.com/channel/UCogVD_oGlqAp6J0guDxF7_pQ



バナーをクリック

配信箇所図



○ 8観測所の配信映像

- 【伏黒水位観測所】
- 【文知摺橋上流】
- 【福島水位観測所】
- 【八木田橋上流】
- 【本宮水位観測所】
- 【阿久津水位観測所】
- 【須賀川水位観測所】
- 【浄土平】



- 人口減少・少子高齢化に伴う土地利用の変化や気候変動に伴う災害リスクの増大といった課題への対応が急務。
- 治水対策事業との連携を図り、阿武隈川を軸とした地域間連携や参加・連携が期待できる水辺整備など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進。

〈取組イメージ〉



○ 管理用通路を活用したインフラツーリズム



○ 水辺の賑わい空間の創出



○ サイクリングロード



○ 河川掘削残土を利用した多目的高台